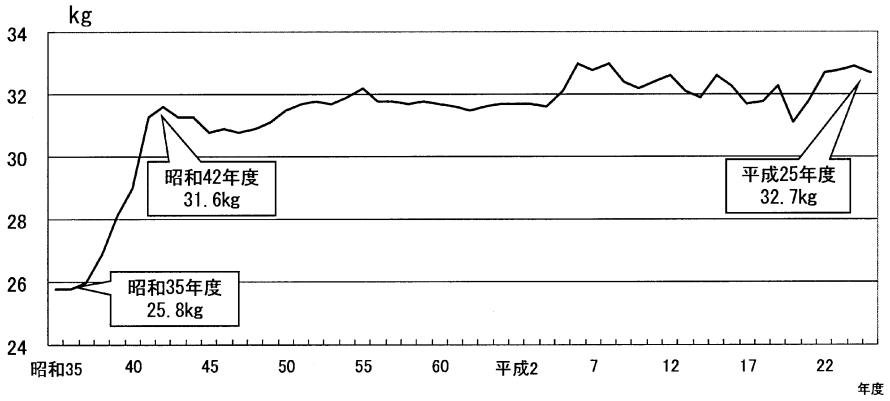
図１　食糧用小麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」
　注：平成25年度の数値は概算値である。

表１　食糧用小麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比
平成20	548	96%
21	560	102%
22	555	99%
23	570	103%
24	608	107%
25	525	86%
26見込み	596	114%

27年度見通し
571万トン
（過去５か年平均）

１－２　国内産食糧用小麦の流通量

⑴　国内産食糧用小麦の供給量（当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量）

平成27年産の国内産食糧用小麦の供給量(注1)は、平成26年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成27年産の作付予定面積（207千ha）に、過去７か年のうち最高及び最低を除いた５か年平均の10ａ当たりの収量(注2)(379kg)を乗じ、さらに、食糧用供給割合（98.3％）(注3)を乗じて、77万トンと見通します（表２）。

（注１）は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される数量である。

（注２）過去７か年（平成19年産～平成25年産）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた５か年の平均値（都道府県別）を平成26年産の都道府県の作付面積で加重平均したものである。

（注３）当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合（それ以外は、種子用、規格外等）。平成27年産については、平成24年産～平成26年産の平均値である。

⑵　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通する量）

平成27年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成27年産の国内産食糧用小麦の供給量に、年度内供給比率(注4)を乗じ、さらに、平成26年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、79万トンと見通します（表２）。

（注４）当年産の供給量のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。平成26年産について、実需者から提出された平成26年産麦の購入計画から算出し、平成27年産については、前年産と同率としている。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年　　産	食料用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越(在庫) ①－②
平成22	53	25	46.1%	29
23	69	22	31.6%	48
24	81	38	46.7%	43
25	77	28	36.9%	48
26見込み	81	36	44.9%	45
27見通し	77	35	44.9%	
		27年度流通量見通し		→ 79

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

１－３　米粉用国内産米の流通量

米粉用米は、市場規模がまだ小さく、平成27年産の取組数量を現段階で予測することは困難であることから、平成27年産の米粉用国内産米の取組計画認定数量は、平成26年産と同量の1.8万トンと見通します。

平成27年度の流通量は、新米の出回り比率等を考慮し、1.8万トンと見通します（表３）。

表３　米粉用国内産米の流通量の推移

（単位：万トン）

年　産	米粉用米の取組計画認定数量 ①	27年度内出回り比率 ②	米粉用米の27年度流通量 ①×②
平成22	2.8		
23	4.0		
24	3.4		
25	2.1		
26	1.8	25.0%	→ 0.4
27見通し	1.8	75.0%	→ 1.4
	27年度流通量見通し		→ 1.8

資料：新規需要米取組計画認定結果（農林水産省調べ）
　注：出回り比率は、新米の出回り時期を踏まえ、前年産が当年４～６月、当年産が７月～翌年３月までとして算出したものである。